

まちづくり交付金 事後評価シート  
村田町線沿道地区

平成20年12月

千葉県千葉市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	千葉市		地区名	村田町線沿道地区			面積	54.4ha		
交付期間	平成16年後～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	2,095百万円	国費率	40%				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	○ 街路(村田町線) ○ 道路(市道村田町39号線、46号線) ○ 公園((仮称)村田町公園A) ○ 下水道(村田町下水道)									
			提案事業	○ 事業活用調査(整備効果検討調査、事後評価調査)									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	○ 道路(市道村田町39号線)		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業						目標・数値指標への影響はなし。				
	新たに追加した事業		基幹事業	○ 道路(市道村田町19号線、34号線、53号線、74号線、89号線、90号線) ○ 公園(村田川第二公園、浜野町公園)		○ 道路 区域内の道路整備について精査・調整した結果、整備の必要性が生じたため追加 ○ 公園 防災環境改善のため、事業を追加			目標・数値指標への影響はなし。				
提案事業			○ 地域創造支援事業(浜野駅快速停車整備) ○ 地域創造支援事業(浜野町公園)		○ 浜野駅快速停車整備 地域の活性化を図るため事業に追加 ○ 浜野町公園 基幹事業である浜野町公園整備にあたり、既存不要施設等の撤去を行うため追加			○ 浜野駅快速停車整備 地域の活性化を示す指標として、居住者数を追加 ○ 浜野町公園 目標・数値指標への影響はなし。					
交付期間の変更		当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	平成 年度～平成 年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
								モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標1	ライフライン供給区域の拡大	ha	35.0	H16	54.4	H20	-	40.3	△	あり なし ●	ライフラインの要である村田町線は一部が整備を終えており、供給可能区域の拡大につながっている。	平成21年5月
	指標2	河川による地域分断の解消	分	15	H16	6	H20	-	13	△	あり なし ●	若干の改善がみられたが、周辺部のICの整備及び経済状況による交通量の減少の影響によるものと考えられる。	平成21年5月
	指標3	防災環境改善	戸	23	H16	0	H20	23	4	△	あり なし ●	村田町線の一部完成により、消防活動困難区域は大幅に縮小されたが、生活道路の改善が進まず、未達成となっている。	平成21年5月
	指標4	交通結節機能の充実	m	15	H16	61	H20	61	61	○	あり なし	一部計画の変更を行ったものの、屋根付き歩行空間を整備することで交通結節機能の充実に貢献した。	
指標5	居住者数	人	14,600	H16	15,300	H20	15,100	15,400	○	あり なし	JR浜野町駅が快速停車駅になることへの期待から、駅周辺の住環境整備が進んだため目標値を達成することが見込まれる。	平成21年5月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
								モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標1	雨水幹線の布設率	%	0	H16			-	69.0	/	/	村田町線の一部が整備を終えており、雨水幹線の布設率向上につながっている。	平成21年5月
	その他の数値指標2	歩行者による地域間連絡時間の短縮	分	23	H16			-	17	/	/	村田町線の一部(橋梁部を含む)が整備を終えており、既設の生活道路とのネットワークにより時間短縮につながっている。	平成21年5月
	その他の数値指標3	簡易避難地の面積	m <sup>2</sup>	6,540	H16			-	7,100	/	/	村田川第二公園の用地を確保したことにより面積増につながっている。	平成21年5月
その他の数値指標4	浜野駅乗降客数	人	10,850	H16			-	11,700	/	/	浜野町駅の快速停車駅化等の事業により住環境整備が進み居住者が増加したことによるものと考えられる。	平成21年5月	
4) 定性的な効果発現状況	・ 地域へまちづくりの情報をもたらす機会が増えた。 ・ まちづくりに関して住民自らの意見が反映されやすいと認識され始め、事業説明会等の際にも住民から積極的な意見や質問が交わされるようになり、住民のまちづくりに対する参加意欲が大きく向上した。												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		指標の達成状況及び事業の進捗等を把握するためモニタリングを実施(H19)				● 都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス		・ 協議会・説明会の開催(H18年2回、H19年4回、H20年3回 実施)				● 都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後は、更に住民の直接的意見を聞くと共に、事業期間中だけでなく、持続的な組織への移行について模索する。		
	持続的なまちづくり体制の構築		なし				● 都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

## 様式2-2 地区の概要

### 村田町線沿道地区(千葉県千葉市) まちづくり交付金の成果概要

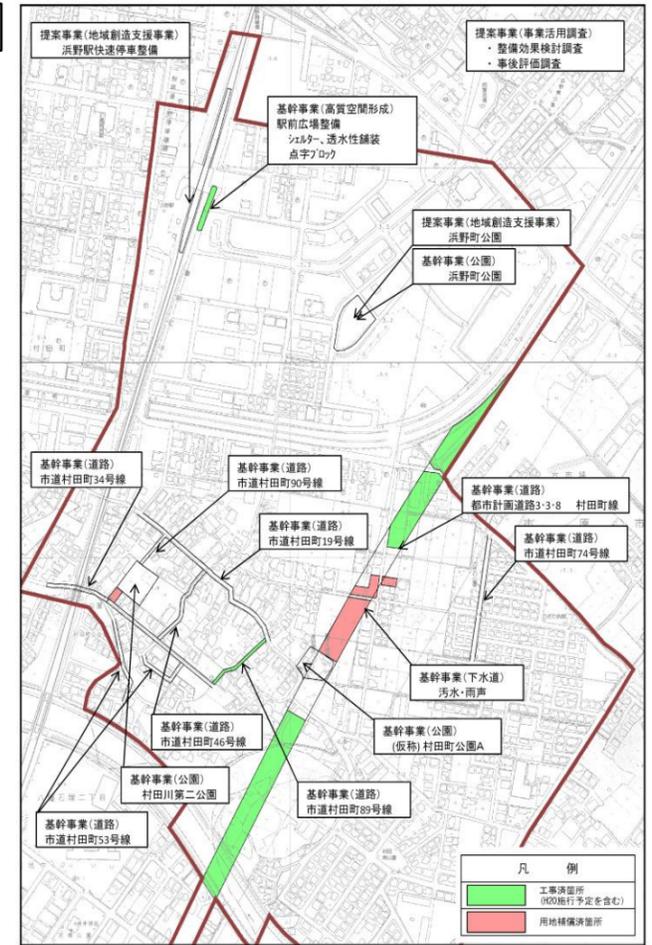
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
千葉市・市原市の連携強化による、市民の交流促進・生活環境向上・利便性向上を図る 目標1：地区生活圏の一体化による地域の活性化及び向上 目標2：安全で快適な生活環境の形成 目標3：快適な駅前広場空間の形成	ライフライン供給区域の拡大	単位：ha	35.0	H16	54.4	H20	40.3	H20
	河川による地域分断の解消	単位：分	15	H16	6	H20	13	H20
	防災環境改善	単位：戸	23	H16	0	H20	4	H20
	交通結節機能の充実	単位：m	15	H16	61	H20	61	H20
	居住者数	単位：人	14,600	H16	15,300	H20	15,400	H20



高質空間形成施設(JR浜野駅東口駅前広場)



### 進捗状況



基幹事業(市道整備事業)



基幹事業(都市計画道路村田町線)



### まちの課題の変化

村田町線が全体の3分の2完成したため、歩行者が通れる様になり市域間の連絡が強化された。また、ライフラインの埋設空間も拡充された。JR浜野駅には、駅前広場にシェルターを整備し歩行空間の機能充実が図れた。また、快速電車が停車できる様プラットホームを延伸整備し、交通結節機能が強化された。地区内の生活道路は狭隘なため、避難地(オープンスペース)が無いことについては、生活道路の一部が整備されたが、更に整備し避難地(オープンスペース)の確保を図る必要がある。今後、村田町線が全線供用されると、地区内の生活道路へ交通の集中が予想され、交通安全上、生活環境上新たな問題となる。

### 今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 連携強化による地域交流の実現
  - ・ 村田町線の全線供用が不可欠であるが、整備済区間に橋梁部分も含まれていることから、歩道部等の暫定供用により地域交流の早期実現を目指す。
- 快適な生活環境の実現
  - ・ ライフラインの要となる村田町線の全線供用が不可欠であるが、部分供用を視野に入れ、ライフラインの暫定的なネットワークの形成を検討する。
  - ・ 地域コミュニティの形成を図るため、地区内に計画されている街区公園の整備を促進する。(整備においては、地権者の協力を得られる部分から早急に整備を行い、街区公園整備の見本として、地権者の合意形成の一助とする。)
- 生活利便性の向上
  - ・ 狭隘な生活道路の拡幅やクランク解消等の部分整備により、防災環境の向上を図る。(公園整備と同様、地権者の協力の得られる部分から整備を行い早急に供用を開始することにより、地権者の合意形成の一助とする。)
- 快適な駅前広場空間の形成
  - ・ 駅利用者の快適性は事業により向上したが、今後は地区の顔としての整備、居住者(駅乗降客)でにぎわうまちづくりを目指す。